



希望の丘に立つ初等学校の学舎

七沢希望の丘 初等学校新聞

発行者／学校法人内田学園
七沢希望の丘初等学校

発行日／平成 25 年6月吉日

巻頭言

「七沢希望の丘初等学校の展望」

校長 島根照夫

東日本大震災における被災地の方々の一日も早い復興がなされますようにお祈りいたします。そのような環境の中で、七沢希望の丘初等学校が今年度も新しい気持ちでスタートできたことを神様と保護者そして教職員の方たちに感謝申し上げます。

今年度の第一回目の教員会で私は次のようなことを話しました。

学校・家庭・子どもの三者が、教育の当事者であることを意識し、主体性を持って教育に取り組む。

では学校はどのように取り組むのか。

七沢希望の丘初等学校では、基礎・基本の学力を保証する。七沢希望の丘初等学校と意識して使ったのは、学びの場は七沢希望の丘初等学校だけではない。フィールドのすべてが教育の場であるからです。基礎・基本の学力を保証する。それには、教師の質をより高めることです。先生一人一人が、職人意識、プロ意識を持つということです。教授法の研究、研修に研鑽します。立派な校舎はできた、これからはどのような人材を搬出していくか、これからの先生たちの意気込み一つで決まります。



島根照夫校長

目次

特集記事

巻頭言／「七沢希望の丘初等学校の展望」

- 1 2013 私学フォーラム
- 2 キャンプ
- 3 避難訓練

話は、それですが、立派な校舎といったのは、今回の地震でもびくともしませんでしたということでした。最新の耐震構造でできています。

畑の野菜の手入れをするように、こつこつ子どもたちに愛情を注ぎながら育てなければなりません。

教育はスローフード。すぐに結論が出るものではありません。しかし、いつか立派な花を咲かすことを信じて教育に取り組むのです。

「希望」と「くらし」のテーマ学習では、生きる力、創り出す学習の場になるように考えています。ものは、有限であるが、知識は無限です。ある人に魚を一匹与えれば、その人は1食を得る。知識を与えれば知識を得る。魚の取り方を教えれば、その人は生涯食えると言われていています。勉強の仕方、学習の大切さを知らせるのです。正しい答えを教えるのではなく、どうしてそのような答えが出てくるのかを考えさせるのです。

高い志は常に不変であるが、これからは生産性のある発想をしていこうと思います。もう消費の時代は終わったのです。先輩たちの財産を食っている間は、常に若い先生たちとのギャップは埋まらないのです。新人の先生には常に初めてであり、経験者は、いつものものの繰り返しに陥りがちです。学校は、子どもたちは、常に新鮮です。常に動いているのです。新鮮みのあるプログラムが必要なのです。もちろん伝統という下地を否定するものではありません。教育現場に伝統をどう取り込むかは、現役の先生が常に考えていなければならないことなのです。教育現場に伝統をどう取り組むか、どのように生かすかは大切な要素です。そのために、常に、七沢希望の丘初等学校の品質をたかめておく。世に問うという姿勢は基本になります。

これからは、生徒の搬出に目を向けるべきであろうと考えます。一つの手間で一の利益を得るならば穀物を植える。十の利益を得るならば、木を植える。百の利益を得るには、人を育てることだとも言われています。だから教育には夢があるのです。希望があるのです。七沢希望の丘初等学校では、世の中で人のために活躍できる、夢と希望を売っているのです。夢と希望を身に着けた人材の育成。次の時代の人たちに参考になるような実践を積み重ねていきます。原点は何かと問われたら、それは里山に根を下ろした信頼の教育、心の教育なのです。

その次に、では家庭での取り組みはどうするのかという話になります。

家庭は、学校でやり残した宿題、積み残しをする場ではない。やりきれないものは、家に持ち帰らさない。親の負担を考え、きちんと評価のできたものを返す。宿題のない学校の考えはこのような考えが根底にあります。もちろん、繰り返しで身に付く反復学習は別ですが。家庭でやることと学校でやることの棲み分けをします。家庭でのしつけ、社会的なしつけ、年齢に応じたしつけが基本になります。学校では、学校集団に必要な身につけなければならないことの躰けをします。それぞれにその場にあった身の振る舞いを身につけさせたいものです。かつて私の上司伊藤朗部長は、T・P・Oを使い分けられる、ジーパンからタキシードまでが似合うスマートな子どもになってほしいと言っていました。幸せな家庭で、優しい子は育つのです。同じように、幸せな学校で優しい子どもが育つのです。

保護者の方には、生活習慣、学習習慣が身につくように協力を仰ぎたいのです。

次に子ども自身はどのように取り組むのが大切になってきます。

学校というところは、きちんと評価をしなくてはなりません。評価をしないのは、子どもに対して無責任と考えます。できないことが悪いことではありません。何ができていて、何が足りないのかを、はっきりと自覚、自己評価できることが大切なのです。自己評価できたときに、では、次にどうしたらよいかがわかるのです。次の目標設定ができるのです。確実に見つかるのは目標。学校、保護者、子ども自身の共有された、手の届く目標設定が大切なのです。そのために、「くらし」と「希望」のふりかえり記録を使うのです。生かすのです。

たまものは、それぞれにいただいているものですから、誰もが、自分の努力やこれまでの歩みを正当に評価してくれることを望みます。しかし、これが高じると、必要以上に誉れを求める醜さを晒すこととなります。負けて悔しがら挫折感。勝って喜ぶ達成感。このバランスが人を育てるのです。

青山学院の歴史を開いた人ドーラ・E・スクーンメーカー宣教師は、生徒にどのように接していたのでしょうか。「しなやかに生きる」棚村恵子著の本の中に次のような記述が出てきます。

「生徒を人間として大切にする指導は手間がかかるものだ。しかし、その手間を省き、祈りを省略することによって、教師は、生徒との信頼関係を築く機会を失うことになる。信頼関係のないところにそもそも教育は成立しない。」

七沢希望の丘初等学校の教育は、家庭とともに手を携えて児童の成長を促していくことを大切にしていきます。そのためには、児童、保護者そして学校の信頼関係は不可欠なのです。信頼関係を築くためには、保護者と先生が同じ方向を向いた教育観が大切です。

かつて地域には井戸端会議というものがあって、たわいのないことを話すことによって気持ちもほぐれたものです。家庭にも茶の間があり、家庭にファミリーとしてのコミュニケーションが保たれていました。だが現代ではどうでしょう。核家族化が進み、気楽に話せる場が少なくなっているのではないのでしょうか。

七沢希望の丘初等学校では、児童と教師、教師と保護者のコミュニケーションを大切にしていきます。クラス懇談会や保護者会では、子育てのヒントが得られるような話し合いにしたいと考えています。エスポワールの活動の他「希望」や「くらし」などの『テーマ学習』なども用意されています。学校は保護者にとっても子どもにとっても居場所なのです。人と人をつなぐ教育現場（教育の場）なのです。

子ども一人一人には宝が詰まっています。そのことに保護者も先生も気づくとお互いに豊かになります。

七沢希望の丘初等学校は、教科学習とキリスト教活動とを量的に理解するのではなく、質的に大事にされ、学校生活全体が、キリスト教信仰の価値観の基盤の上に立っていきたいと考えます。そのために、子どもと保護者と先生のトライアングルの信頼関係を築いて参ります。

重複する部分もありますが次のように考えています。

- 1、子どもと先生が夢と希望を持ってキラキラ輝く内田学園にします。
- 2、会議時間や回数を少なくすることにより、先生たちの自由な時間を還元していきます。
- 3、教師一人一人がプロ意識を持って取り組んでいきます。そのために、授業研究や研修を企画します。
- 4、教師間および保護者の方たちとの風通しをよくし、気持ちよく教育のできる環境作りをします。

最後に、登下校の安心安全についてですが。

学校でも指導いたしますが、基本的に学校を出でからの指導は各家庭にお願いいたします。それぞれの家庭で、条件が違います。ご家庭の事情に合った指導が必要になるからです。

大切なのは、携帯電話などの機械文明に頼るのではなく、もしもの時に、家族と話し合っておくことと、固定電話のある場所、危険個所などを確認しておくことです。

今後とも七沢希望の丘初等学校教育にご理解とお支えをお願いいたします。

1 2013私学フォーラム

学校名	七沢希望の丘初等学校			創立年度	平成21年(2009)	電話	046-270-6123		
住所	神奈川県厚木市七沢433-1			URL	nanasawa-kibou.jp	FAX	046-270-6122		
系列校	七沢幼稚園	交通案内	小田急線本厚木駅、または愛甲石田駅下車七沢1ハビテーション義園行きバス日南川バス停下車徒歩10分						
建学の精神	『目指す児童の姿』 1. 自立から自律へ 2. 希望に向かって進み 3. ともに生きる。			教育理念	生きる喜びを伝え、自らを学び拓く				
教育目標	『夢』と『希望』に向かってキラキラ輝く子			教育実践	『子どもと教師で動く授業』と『創造する学校づくり』				
正教員数	9名	講師数	5名	始業時刻	8:30	1コマの授業時間	45分	土曜日の扱い	隔週土曜日休日
学期	3	1クラス人数	20	1学年のクラス数	1	給食	月、水、金の週3回	制服の有無	制服なし。但し、校閲と指定ついでもあり
施設・設備	イングリッシュを特色とするオープン教室	セキュリティ	(株) 特別警備保障			保護者の関わり	エスワール(保護者会)と学校が密着として機能		
学校行事	基本行事の他、プレイデイ(運動会)、収穫祭、クリスマス会等		クラブ活動等	23年度はサッカークラブと科学クラブを実施		外国語国際理解教育	英語を三人の講師(二人はネイティブ)で、週2コマ一年生より実施		
入学志望者へのメッセージ								夢と希望を抱き、世界に羽ばたく皆さんを待っています。	

昨年に引き続き、二回目の参加になりました。各学校の活動の様子がわかります。



七沢希望の丘初等学校らしい木の小鳥など、子どもの作品を前面に出しました。竹の子も、素晴らしい演出をしてくれています。

2 キャンプ

今日の夕ご飯は、ハヤシライスだね。

みんなの気持ちのこもった、おいしいものになるね。



燃えろよ、燃えろよ、炎よ燃えろ。

今日一日の感謝をしましょう。

3 避難訓練

わー、すごい水の勢い



なるほど、消防車はこのような
になっているんだね。

学校名／学校法人内田学園 希望の丘初等学校

□住所／〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 433-1

□電話番号／046-270-6123

FAX番号／046-270-6122

□ホームページ <http://www.nanasawa-kibou.jp>

□E-Mail nanasawa-kibou1@jupiter.ocn.ne.jp

交通アクセス 〈電車・バスを利用の場合〉

□小田急線愛甲石田駅下車。神奈川中央交通バス七沢温泉行き約20分。日向川バス停下車、徒歩10分

□小田急線本厚木駅 勢原駅からもバスは出ています。

自動車を利用の場合